

北海道旭川商業高等学校「言語文化」シラバス（2単位）				A 10時間		B 60時間		計 70時間											
科目の目標				単元名															
				4月	4・5月	5月	6月	6・7月	7・8月	9月	10月	10・11月	11月	12月	12・1月	2月	2・3月		
(1) 知識及び技能 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 思考力、表現力、判断力等 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 学びに向かう力・人間性等 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				を現代に 読み通 じること 。古文 の面白 さや独 特の世 界観	漢文が 日本に 及ぼし た影響 と訓読 の方法 を	物語の 語の特 徴や和 歌の役 割をこ う。こ う。こ う。	今昔物 語集と の違 いを 読み 取る こと。	漢文の 訓読に 慣れ、 漢文由 来の言 葉を 読み 取る こと。	生活感 覚や興 味の対 象を知 り、も のの見 方	詩・短 歌の表 現方法 や構成 を読み 取る こと。	技法の 自然や 押韻や 対句へ の思い を読み 取る こと。	各時代 に詠ま れた和 歌の特 徴をこ う。こ う。こ う。	日本各 時代の 漢詩と 唐詩の 違い	時代の 背景を 把握し 、人物 の考え や主張 を	争いを 背景と して生 まれた 思想や 人物の 有	日本に 影響を 及ぼし た孔子 のもの の見方	伝統文 化の特 徴をこ う。こ う。こ う。		
学年	第2学年	担当	国語科教諭3名																
使用教科書		言語文化(数研出版)																	
指導領域		A 書くこと																	
授業時数の計		10時間																	
指導領域		B 読むこと(古:古典、近:近代以降の文章)																	
授業時数の計		古典:40時間 近代以降の文章:20時間																	
指導事項																			
知識及び技能	(1)	ア	言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解すること。	○	○	○						○				○			
		イ	常用漢字の読み慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。																
		ウ	我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	○	○	○	○	○	○				○		○	○			
		エ	文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解すること。																
		オ	本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解すること。								○	○	○	○					
	(2)	ア	我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。	○	○			○			○	○	○	○	○	○		○	
		イ	古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解すること。	○	○						○	○	○	○	○	○	○	○	
		ウ	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解すること。	○	○	○	○			○		○	○	○	○	○	○	○	
		エ	時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解すること。	○		○	○					○				○			
		オ	言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めること。							○						○			
思考力・表現力・判断力等	A 書くこと	ア	自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にすること。			○				○		○					○		
		イ	自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫すること。			○				○		○					○		
	B 読むこと	ア	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基的に捉えること。	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	
		イ	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。	○		○	○			○		○		○	○	○	○	○	
		ウ	文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。									○		○					
エ	作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること。			○	○						○								
オ	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。	○	○					○							○	○			
教材名																			
※各単元の目標について (1) 「知識及び技能」の目標及び、「思考力、判断力、表現力等」の目標については基本的に指導事項の文末を「～できる。」として示す。 (2) 「学びに向かう力、人間性等」の目標については、いずれの単元においても当該科目の目標である「言葉がもつ価値～他者や社会に関わろうとする。」までを示す。 ※各単元の評価規準の設定について (1) 「知識・技能」の評価規準は当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する[知識及び技能]の指導事項の文末を「～している。」として作成する。 (2) 「思考・判断・表現」の評価規準は当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する[思考力、判断力、表現力等]の指導事項の冒頭に、指導する一領域を「(領域名)」において、「と」明記し、文末を「～している。」として作成する。 (3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、①粘り強さ(積極的に、進んで、粘り強く等)、②自らの学習の調整(学習の見直しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等)、③他の2観点において重点とする内容(特に、粘り強さを発揮してほしい内容)、④当該単元の具体的な言語活動(自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動)を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組合せを工夫することが考えられる。文末は「～しようとしている。」として作成する。				なよ竹の学習、 児のそら寝 物語、 絵師良秀 (宇治拾遺物語)、 漢文の学習、 訓読に親しむ (一)～(三)	芥川・筒井筒 (伊勢物語)と (大和物語)を 読み比べる	『羅生門』と (今昔物語集)を 読み比べる	漁夫之利、ほ か三編の(故 事成語)	春は、あけぼ の・はしたな きもの(枕草 子)、 ある人、弓射 ることを習ふ に・花は盛り に(徒然草)	整のうへ、ほ か四編の詩 折句を用いて 短歌を作る	静夜想 李白 、月夜 杜甫 、ほか四編の (唐詩)	万葉集、ほか 二和歌集。旅 立ち・奥のほ そ道、 和歌を現代の 言葉に置き換 える	(唐詩)と(日 本の漢詩)を 読み比べる	完璧、ほか二 編の(史伝)	祇園精舎、ほ か一編(平家 物語)	学び、ほか二 編の(論語)	(浄瑠璃)や(祭 礼)など日本 の伝統文化を 読み解く			